

今日のトピック インドの経済・市場動向（2018年4月後半）

債券市場は急反落、株式市場は緩やかな上昇

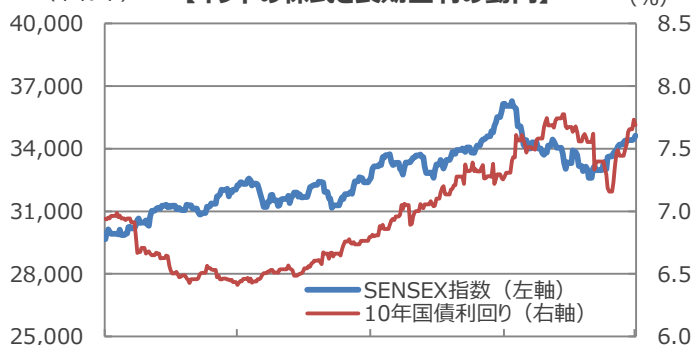
【インド市場の推移】

インド市場	騰落率または変化幅 (%)				
	基準日 4月24日	1週間	1か月	6か月	1年
為替レート					
円/ルピー (円)	1.64	0.6	1.7	▲6.4	▲3.8
ルピー/米ドル (ルピー)	66.39	1.1	2.1	2.0	3.0
金利					
政策金利 (%)	6.00	0.0	0.0	0.0	▲0.3
10年国債利回り (%)	7.69	0.2	0.1	0.9	0.7
株式指数					
SENSEX指数	34,617	0.6	6.2	6.2	16.7

(注) データは2018年4月24日基準。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(ポイント) 【インドの株式と長期金利の動向】



(注) データは2017年4月24日～2018年4月24日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント1 債券市場は急反落

インドルピーも対米ドルで下落

- インド債券市場は、インド準備銀行がインフレ見通しを引き下げたことや、国債の需給改善観測が強まったことから、3月中旬から4月上旬にかけて大きく上昇しました。しかし、その後は米金利や原油価格の上昇、金融政策決定会合の議事要旨の内容がタカ派的であったこと等を受けて急反落する展開となりました。10年国債利回りは、4月上旬に一時7.1%台まで低下しましたが、足元で7.7%程度へ戻しています。
- また、通貨ルピーは対米ドルで下落しています。原油価格の上昇が続いていることで、インフレ懸念に加え、インドの経常収支の赤字拡大が嫌気されていることが背景です。

ポイント2 株式市場は緩やかな上昇

景気加速見通しや企業の好決算を好感

- 一方、インド株式市場は、主要株価指数のSENSEXが3月下旬の年初来安値圏から反発し、4週続伸するなど、緩やかな上昇基調を辿っています。米中の貿易摩擦の懸念が後退するなか、インドの景気が加速する見通しやIT企業の好決算等を受けて、買いが優勢となっています。

今後の展開 今年のモンスーンは平年並みの予測、市場の安心材料に

- インド気象庁 (IMD) は4月16日、今年のモンスーン (雨季) の降雨量の一次予測を発表しました。農産物の生産量を左右するモンスーンの降雨状況は、インドの経済活動や物価に大きな影響を与えるため、金融市場で注目されています。IMDによれば、今年は平年並みの降雨量となる見込みです。
- モンスーンが平年並みの降雨量という予測は、農家の所得減少による消費停滞や、食品価格の高騰に伴う物価上昇のリスクが低減するという点で、インドの金融市場の安心材料となりそうです。

ここも
チェック! 2018年4月23日 ADBの『アジア経済見通し2018』
2018年4月11日 インドの経済・市場動向 (2018年4月前半)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。